

## 58 中野康章と大同薬室文庫

## 現在の利用状況と今後のデジタル

## アーカイブ化について

野尻佳与子・青木 允夫

一八七四年(明治七)に秋田県の神職の家に生まれた中野康章は、一八九一年十七歳の時に医学を志して上京、浅田宗伯に師事した漢方医である。一八九四年、宗伯逝去後、養嗣子の浅田恭悦とともに漢方医学の研究に励んだ。一八九八年恭悦のもとに、旧友でもある中国の高官から往診の依頼があり、随員として中国に同行した。帰国後は、住居を大阪に移し、大阪此花区上福島の中之天神社で社掌を勤める傍らで医療を施し、一九四七年(昭和二二)一月二日、七十三歳で亡くなるまで、近畿地方において浅田宗伯の教えに基づく皇漢医学の伝承と普及に貢献した。

晩年の中野康章が膨大な蔵書を有していたことは、一

部の関係者には知られていたが、ほとんどは散逸してると考えられており、近年までその全貌については明らかにされていなかった。

しかし、中野家の継承者が移り住んでいた大阪府豊中市の屋敷と、蔵書を収めていた土蔵が、一九九三年に取り壊されることとなり、中野家が蔵書の収蔵先を探していたことよって、中野康章旧蔵大同薬室文庫の存在が明らかになった。大同薬室文庫という名称は、中野康章の居室名が「大同薬室」といい、蔵書印に「大同薬室」といったものが多いことに由来している。

一九九三年の二月、中野家より内藤記念くすり博物館へ蔵書のすべてを移して、博物館で大同薬室文庫の整理作業に着手した。二〇〇〇年に蔵書整理が完了、二〇〇一年「大同薬室文庫蔵書目録」の発行を以て、蔵書の一般公開を開始した。その後、各分野の研究者による調査が進み、蔵書それぞれの学術的価値も次第に明らかになりつつある。

これまでの調査によって明らかになったのは、安藤昌益関係書の『良中子神医天真』『良中先生自然真営道方』

や、『入江中務少輔御相伝針之図(耆婆五臟経)』などの出現である。奈良絵本や文学分野などについても調査すべき書物は多い。文学五〇五三点、思想・宗教三二四〇点など、医薬分野以外の書物も多いのは、大同薬室文庫の特徴である。

近年、図書館・博物館における新たな動向として、整備されつつあるものの一つが、所蔵資料を対象にしたデジタルコレクションの構築である。デジタルアーカイブともいわれ、情報提供サービスの高度化を推進するための取り組みとして求められている。

歴史的な和装本や貴重書は、利用が増すごとに破損や劣化しやすくなる。また事故や災害による亡失の恐れも存在する。そこで、所蔵図書をデジタル化したファイルを作成し、その利用を促進することによって、オリジナル資料の保護を目的とするものである。さらに画像ファイルは、インターネットなどを通じて遠隔地の利用者へも公開できるため、より多くの利用者のニーズにも対応できるようにする。従来からあるマイクロフィルムに類似するものであるが、遠隔地の利用者への公開という点

で、特に優れた技術である。

そこで、くすり博物館でも、現在までに四十一本の書の全頁を撮影して、二四五点の画像データを二〇〇三年十二月末までにファイル化した。一部の画像データは、既に、くすり博物館のホームページ、<http://www.eisai.co.jp/museum/index.html>にて閲覧することができる。

今後も、随時、追加掲載していく計画だが、公開対象となる図書のデジタル画像化は、利用者の方々からの複写システムへの協力によって成り立っている。閲覧および複写の際には、デジタルアーカイブ化へご協力いただけるよう促すとともに、個々の蔵書の具体的研究が進むよう幅広い分野での研究を積極的に受け入れている。それに伴い、くすり博物館では、蔵書の整備のみならず新たな情報技術の導入によって、利用者からの高度なニーズにも対応できるようにサービスの充実を心がけている。

(内藤記念くすり博物館)